

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月24日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	藤原 裕子
自己評価作成日	平成 30 年 7 月 18 日

<p>【事業所理念】 「一緒に」「共に」を大切に、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「利用者一人ひとりの尊重、プライバシーへの配慮が出来る」では、勉強会を行いました。また、職員同士での声掛けを行いました。1人1人への気配りを行う職員が増えてきましたが、不十分な点も見受けられます。今後も、1人ひとりの尊重を考え対応していきたいと思えます。 「サービス向上に活かせる運営推進会議を行う」では、地域の方への声掛けに力を入れています。少しずつですが、地域の方への参加も増えてきました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 高台に建つ事業所のリビングからは海が見渡せ、地域の花火大会を毎年室内で鑑賞することが、利用者や職員の楽しみのひとつとなっている。事業所全体が大変衛生的で整頓されており、利用者のケースファイルや会議録等の書類もきちんと整えられている。また、記録書類はどれも大変細かく丁寧に作成されており、誰が見ても分かりやすいよう整理されている。これまで課題と感じていた地域との交流についても、趣味の会を発足し、地域住民との活動が定着しつつあり、これからの地域交流が楽しみである。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ご本人様に伺ったり意思の疎通が難しい方は家族様のお話を参りに生活歴をもとに意向をくむ様にしている。	◎	/	◎	利用者ごとの担当職員が定期的に内容を更新するアセスメント表には、利用者の希望や意向が丁寧に記載され、特徴がよく分かるようにまとめている。新しい情報は朱書きをすることで、他の職員との情報共有が容易にできるよう工夫されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者の思いを考え、ユニットで話し合いを行っている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時や電話連絡の際に、話を伺っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	利用者についての気づきを申し送り帳やユニット会議事録に残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人様の行動や言葉等から観察を行い、コミュニケーションを図り対応している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご本人様との日々のコミュニケーションや家族様との関わりの中で好きなことやしていたことなどをできるように努めている。	/	/	◎	利用者や家族などからこれまでの暮らしの情報を聞き取り、アセスメント表に記入している。これまでの生活歴やこだわりなど、利用者が習慣としてきた暮らしのリズムが事業所でも継続できるように支援につなげ、毎朝のコーヒーと新聞が習慣である利用者が、同じように暮らしている様子が印象的であった。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	アセスメントを活用し、出来る事と出来ない事を見極め、本人様に出来そうな事はして頂いている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	体調や本人様の状態の確認を行い、ユニット職員で話し合い対応している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	本人様の状態の把握を行い、職員間での把握を行っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別生活援助を活用している。日中・夜間の様子を観察し、過ごした方を知る事で、変化に気づけるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ユニット会で意見交換を行い自立支援の視点を重視している。	/	/	◎	月2回のユニット会では、利用者ごとの担当職員が中心となり、他の職員からの意見を取り入れながらカンファレンスを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	介護職・医療職・家族様と一緒に情報を共有し、支援について検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	検討した内容に基づいて課題の抽出を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の意向を伺い、介護計画書に反映している。	/	/	/	毎月利用者ごとの担当職員が、ケア行動計画チェック表でモニタリングを実施し、それらを踏まえて計画作成担当者が介護計画を作成している。担当者会議や家族の来訪時には意見を確認し、出された意見を介護計画へ反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	アセスメント、個別支援計画を毎月見直し担当者会議を開催することでケアプランを作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	その人らしさを失わない事に留意し、本人様のペースでの生活が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様への協力を実施しているが、地域の方への協力が不十分である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護経過支援記録書の確認・記入により把握している。	/	/	◎	介護計画の内容は個別生活援助記録で理解し、短期目標ごとにケア行動計画チェック表を用いて毎日確認し、毎月のモニタリングで確認している。介護記録には利用者の様子や発言が細かく具体的に記録され、支援を通じての職員の気づきや工夫アイデアの記載もある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護経過支援記録を毎日記入し毎月評価している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	実施記録で項目別に個別記録をしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	利用者の様子を主に記入しているが、気づきを書くように努力している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間を確認してきている。	/	/	◎	3か月ごとに見直しを実施し、毎月利用者ごとの担当職員がモニタリングを実施し、現状を確認することで、小さな変化を見逃すことなく介護計画の見直しへつなげることができている。入退院などの状態に変化がある場合、随時関係者と見直しを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	アセスメント記録・個別生活援助記録・支援記録を活用している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	計画を作成し必要時には区分変更申請の手続きも行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会、職員会、また事故発生時などミーティングを実施している。	/	/	◎	毎月開催する職員会や、月2回開催するユニット会で、利用者のケアに関することや業務の話し合いを行い、緊急案件があれば当日出勤者で即日話し合いを行っている。話し合った内容は会議録にまとめ、全職員に回覧し、確実に伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの発言を聞き、それぞれに対して話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日出勤者にて会議を行っている。出席できない職員には前もって意見を聞き、実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録に残し、閲覧してもらうことで周知させている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートへの記入、ユニット会の活用が出来ている。	/	/	◎	ユニット毎に申し送り帳というファイルを用意し、利用者についての伝達事項やリーダー会で話し合われた内容などの記載のほか、各種会議録も綴じられている。閲覧後に押印し、全職員に周知されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日の生活記録の申し送り事項に記録できている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レクリエーションの参加を無理にせず、本人様の意向を大切にしている。本人様からの訴えが少ない状態である。	/	/	/	暮らしの様々な場面で、利用者が決定できるよう声かけを工夫し、利用者の反応や発言を聴いている。利用者の表情や発言を引き出すためにも、職員は積極的に声かけや話題の提供に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声かけの仕方でも本人様の意向や希望を聴くように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	二者択一で答えてもらうような声掛けや分かりやすい言葉を使い、決めて頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースに合わせて、無理強いないようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員のほうから積極的に声かけし話題の提供も行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人様の表情や行動に注意しながら支援を行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	定期的な勉強会での学びを活かし配慮している。	◎	○	○	年に1回、接遇研修で人権や尊厳について学んでいる。大声になりやすかったり、配慮が十分でないと感じる場面もあり、努力していきたいとしている。居室への出入りについて、居室の全てを個人宅であるように扱い、ノックや挨拶はもちろん、本人に了承を得て一緒に入室するなどの適切な配慮が確認できた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	難聴の方もいらっしゃる中で周囲への配慮に欠けているときがあると思う。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	ドアやカーテンを閉める。視線に気を付ける事などに注意している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	一人一人の居室を個人宅だと思い配慮に努めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を実施し、知り得た情報を口外しないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者の方から教えて頂いたり、一緒にして頂いた際は、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	周りの利用者とトラブルになりやすい利用者もいて、職員が介入したり、本人や他の利用者の状況を見ながら、他のユニットへの変更にも配慮している。リビングが広いので、他の利用者との距離を置きながらソファ席でくつろぐこともでき、利用者同士の関係や個々の気持ちを理解しながら、良好な関係への支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお話している際の表情を見て、大切である事を実感している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置にし、職員が見守り時には介入し、和気あいあいとした雰囲気になるようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きないように前もって対応をしている。トラブルが起きた際は、すぐに仲に入り対応をしている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の面談やその後の聞き取りにて、人間関係を把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人様やご家族様から話を伺っているが、不十分な所もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様の協力のもとで出来ている方もいらっしゃるが、出来ない方もいらっしゃる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	来苑時にはゆっくりとお話が出来るように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	インフルエンザの時期になると外出や面会を制限している。天候に合わせてと事が多いが家族様にも病院受診時など利用して協力していただきながら戸外に出られるように取り組んでいる。苑では戸外食や苑庭での日光浴、散歩など行っている。	○	×	○	近くの神社のお祭りに出掛けたり、気候の悪い時期には、ドライブをして車窓からお花見をする等、利用者の体調に配慮しながら外出を楽しむ支援を行っている。重度の利用者も他の利用者と同じように事業所のテラスでおやつを食べたり、玄関で手持ち花火を楽しんだりして、外の空気を吸って気分転換が図れるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族様の協力のみでの外出支援となっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調面に特に配慮しながら気候の良い時期での戸外食や苑庭を利用した日光浴に努めている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人様の希望を聞いた際は、ご家族様に伝え実施している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を実施し、認知症について理解し、対応するよう心がけている。	/	/	/	利用者ができることやできそうなことについてアセスメントでよく理解しており、生活の中でできることをやってもらったり、広いリビングやテラス・ベランダなどを活用して訓練や体操を一緒に行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	身体期のう低下について理解した上で、必要な支援を行っている。日常生活の中で気のう維持を図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自立支援を意識して声かけを中心にご自分でできるように支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人様の得意とすることをお願いしている。	/	/	/	アセスメントで確認し、利用者がそれぞれに持つ習慣や好みに合わせた暮らしを支援できている。得意な家事ができる場面では、生き活きた利用者の表情が見られている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	ご利用者様の生活歴や好きな事、したいことを取り入れることで暮らしやすさを感じてもらえるように配慮している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での役割や出番が出来るところまでの地域との関わりが出来ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人様の好まれる洋服を選んで頂くようにしている。				入居時に理美容についての希望を確認し、家族の協力も得ながら衣替えを行い、季節に応じた身だしなみを支援している。食べこぼしなどが見られても、周囲にさとられないようさりげなく対応する様子が見られた。重度な状態であってもアセスメントで希望を確認し、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	髪型・服装・持ち物など、本人様に伺い尊重しているが、重度の方に関しては、憶測で支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人様の選択しやすいような質問を行い実施している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合った洋服や本人様の好む洋服を着て頂くように支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	朝、モーニングケアを行っている。汚れた時には着替えなど行うようにしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	なじみのお店があるかどうかを伺い、自由に行って頂いている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	苑での散髪を利用して頂くこともあり、ご本人の希望の髪形を確認したり、場合によっては家族様に教えて頂くこともあり。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さや美味しく食べられるように支援している。				調理済のメニューが配達され、炊飯のみ事業所で行っているため、利用者の好みを取り入れることや日常的に調理を共にする機会は少なく、おやつ作りの日を設けることで共に作業を楽しむ工夫をしている。好みや苦手なもの、アレルギーの有無についてアセスメントできており、事業所で栽培した旬の野菜を取り入れるなどの工夫がある。食器は好みのものを持参してもらい、自由に使っている。職員は個人で食事を用意し、食事介助や見守りを行いながら食事を共にしている。重度な状態であっても、配膳される食事の香りや、献立を読み上げながら楽しみに待っている姿が見られた。栄養士による栄養バランスの良い献立であるが、給食会議で内容を話し合ったり、ユニット会ではご飯の水加減などの具体的な話し合いが行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理やおやつ作りの際に、出来る事を一緒にして頂いている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理やおやつ作りの際に盛り付けや、一緒に作って頂き、達成感や満足感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメントや観察にて、個々のアレルギーや嗜好を把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者様の好みを中心に考えた食事を提供しており、季節の食材も取り入れ、苑で取り入れた野菜も提供するようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	その日の状態に合わせた調理方法によって提供している。目で見える事も大切に、盛り付けも丁寧に行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	ご本人様の状態に合わせて選んでいる。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	介助が必要な方に対して、食卓を囲んでフロア全体を見守り支援を行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立を紹介したり、においからメニューを当てたり雰囲気が和む様に配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1日の摂取量の記録を行い、把握している。摂取量が少ない場合は、声掛けを行い摂取して頂くようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人が食べやすい形状での提供や、定時以外の水分の提供を行っている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	給食会議にて栄養士にも相談したメニューを考え提供させてもらっている。			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に布巾や食器の消毒を行っている。食事前の手洗いや食事前のエプロン着用を行っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を実施し、口腔ケアの必要性を理解している。	/	/	/	全利用者の口の中の健康状況について、アセスメントシートに細かく記載され、セルフケアが可能な利用者についても、定期的に職員がチェックしている。毎食後歯磨きなどの口腔ケアを行い、できることは自分でやってもらいながら口腔内の清潔支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	特に食事中や口腔ケア時に観察している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	勉強会のみである。歯科受診に行かれた際は、指示を確認し実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	1日3回の手入れと、夜間は義歯洗浄剤を使用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の口腔ケア時にチェックし必要な時には介助も行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合を発見した際は、看護師に報告し、必要時は受診をしてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や日々のケアを通じて、排泄の自立の大切さを共有している。	/	/	/	ユニット会で排泄用品の必要性や適切性について話し合っている。排泄介助や声かけで、トイレでの自然排泄ができています。ユニットに4か所あるトイレの出入口は、車椅子の利用者が1人で開閉できるよう、ドアとアコーディオンカーテンが設置されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や看護師より指導を受けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用し、把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ユニット会で定期的に意見交換を行いながら、オムツの使用や種類を検討している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で情報交換し、改善策を検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、個々の状況に応じて声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ・パッドの使用方法について、職員間で話し合い、ご家族様にも相談する。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	尿量・回数を把握した上で、各利用者様に合った使用をしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘予防の為、水分摂取や腸のマッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	本人様のペースに合わせて入浴の実施が出来るようにしている。温度も本人様に伺いながら行っている。	◎	/	○	入浴の希望や湯温度などに配慮しながら支援している。一般浴槽だけでなく、車椅子のまま入れる特殊浴槽も備えており、利用者の身体状況や希望によって使い分けられている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ゆったりとした入浴時間の確保に努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事は本人様にして頂くような声掛けを行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否される場合は、本人様のお話をじっくりと聞き、時間や順番、日にちの変更をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認や本人の状態の確認を行っている。入浴後の体調変化にも気を付けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	記録に残し、申し送りを行う事で、パターンの共有をおこなっている。	/	/	/	習慣的に安定剤を服用していた利用者もいるが、不眠の原因を職員間で分析し、生活リズムを見直している。主治医に相談して減薬したり、服薬を中止できた利用者もあり、総合的な支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活状況を把握し、日中、活動的に生活できるように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠状況を確認しながら、不眠時には原因の分析を行い薬剤の使用は最終手段として担当医へご相談させていただいている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様の訴え時や状態に応じて、休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様が電話をしたいと言われた際は、職員が付き添い電話を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	手紙が届いた際は、本人様にお渡しし、返事をどうしたいかを確認している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話をされる際は、ゆっくり話が出来るように椅子に座って頂き、話しやすい環境を作っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人様にお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご家族様にも理解して頂き、電話をしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持することや、遣うことの意味や大切さを理解しているが、利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	実施できていない。必要時は、ご家族の協力のもと行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	実施できていない。買い物の希望を言われる方が少ない状況である。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	トラブルの危険性が高い為、所持しないようお願いをしている。今後、お金の所持については、ご家族様とも相談をしていく。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規程を決めている。実際、お金の所持は行っていない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	ご利用者様やご家族様のニーズに添う努力はしているが難しい時もあり、ご家族様に協力して頂くことも多い。	◎	/	○	自宅での暮らしが継続できるよう新聞を購読したり、コーヒーなどの嗜好品の買い物を家族の協力を得て行っている。利用者や家族の状況に応じて柔軟にサービスを検討する姿勢を持っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	定期的に苑庭や苑周辺の草引きや掃除を行っており、入り口や駐車スペースをは開放し誰でも気軽に立ち寄れるようにしている。	◎	◎	○	草引きや植物の植え込みなどの手入れが行き届き、玄関回りは清潔に整えられている。出入口は開放してあるため気軽に出入りでき、スリッパなどを準備してもてなしの雰囲気を感じられる		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	毎月、居室や壁画の飾りは季節に合ったものへ変更している。季節の花を飾ることもあり。窓からの景色が良いので天気の良い日はしなみの景色を楽しんでいただき解放感を感じてもらえるようにしている。	◎	○	○	事業所全体が大変衛生的で整頓されており、季節に応じた工作物を利用者と一緒で作成し、各居室出入口に飾ってある。リビングの大きなガラス窓からは、しまなみ海道を眺めることができ、ソファなどを置いてくつろぎのスペースも設けている。訪問日が花火や祭りのシーズンであったため、季節感のある壁絵が作成され、会話が盛り上がっていた。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、換気や掃除を行っておりご利用者様からの苦情はみられない。					○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ホールを季節が感じてもらえるような装飾に毎月変更している。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	共有スペースにソファは配置し、ゆっくりと過ごせるようにしている。ソファに1人で座られたりと過ごされる方もいらっしゃる。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンを使用し、プライバシーの保護をおこなっている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族様に協力して頂き、ご本人様が好んで着られていた服を持ってきていただいたり、習慣とされていたことは苑でも続けてもらえるようにしている。(新聞を読む、コーヒーを飲む、人形などを飾る)	◎			すっきりとした中にも利用者の好みの物を持ち込み、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。ひきこもり防止、認知症の進行抑制の目的で、できるだけ居室にはテレビを置かないようにしている。畳部屋もあり、利用者の状況に応じた環境を整えている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すりの使用、電動ベッドの活用、一般浴と特殊浴の使い分けを行い、ご利用者様の心身の状態に配慮している。				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人様が分かりやすい物を使用したり、配置するようにしている。				手すりや電動ベッド、トイレドアに設置したアコーディオンカーテンなど、利用者ができることを継続しながら生活できるよう努めている。トイレは大きめの文字で表示し、わかりやすいように工夫していた。		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	本人様の好むものは、居室に置かれたり、フロアに置かれ、ご自分の好きな時に使用している。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	勉強会や日々の話し合いの中で、玄関に鍵をかける事の弊害は理解出来ているが、近年、今治市内での不審者が相次ぎ、施錠を行っている時もある。	◎	◎	◎		日中は玄関の施錠はなく、職員も施錠しない環境での支援に慣れている様子である。職員は、ユニットから出ようとしている利用者にとっと寄り添い、別のユニットへ行って気分転換を図る等の支援を行っている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	地域において解放された施設であることの必要性を説明している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	見守りや声掛けを行っている。また、一緒に外出を行い、気分転換を図っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントを行い、職員間での情報共有を行っている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	平常の様子を知る為、様子観察を行い、変化に気づけるようにしている。日々の状態を記録できている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば看護師に連絡をしている。看護師から、かかりつけ医に連絡が出来るよう情報提供表を書いてもらい、病院に渡している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	往診を希望される方には往診を利用して頂いているが、かかりつけ病院がある方には入所後も継続してご家族様と一緒に通院している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師に情報提供書作成してもらい、医療との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診・服薬後の様子を家族様に報告し、その後の通院についても話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、サマリーを作成し、情報提供をしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院に様子伺いを行い、病院関係者と情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医師から薬についてなど、電話連絡・お手紙を頂く事もできている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づいたことや必要時には看護師に報告し、指示をもらっている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	必要時、電話などにて指示を受ける事が出来ている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定を実施し、体調管理に努めている。異常時は、看護師へ報告している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬表を作成し、確認をしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬ボードを活用している。服薬時は、名前の確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排便の確認を行ったり、状態の確認を行い、変化に注意している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	変更時は、本人様の様子を記録し、看護師にも報告している。看護師から家族、医師の情報提供をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に重度化の話をしている。変化の段階ごとにご家族と話しを行い、意向を確認しながら方針を決めている。	/	/	/	事業所には特殊浴槽もあり、身体的な重度化には対応が可能であるが、医療的な処置が必要な状況になった場合は家族とも相談し、医療機関等へ移っている。事業所での看取りは実施しておらず、その点については入居時に利用者や家族へ説明している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族様を通じて、かかりつけ医などに相談して頂いている。看護師から病院への連絡も行っている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量を把握し、どこまでの支援が出来るかを見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族様に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期の方はおられないが、勉強を行う体制はある。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様とのコミュニケーションを図り、必要時は支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年に2回、勉強会を行っている。対応方法や注意することを学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会にて手順の勉強を行っている。マニュアルにも対応方法があり、確認をおこなっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	テレビや新聞、インターネットなどを活用し、情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集を細目に行い、対応している。職員同士共有している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいを徹底している。玄関に手指の消毒が出来るように消毒液やマスクを置いている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	施設での様子を連絡し、家族様の意見を聞き、一緒に考えている。	/	/	/	家族や友人が会いに来ることもあり、行事や趣味の会への参加を呼びかけ活動を共にする機会を作っている。毎月、写真入りの苑だよりを家族に送り、何かあった際には速やかに電話連絡を行っている。運営推進会議やサービス評価の取組みについては、自由に閲覧してもらえるよう掲示しているが、実際に目を通して家族が少ない現状であるため、今後はより伝わりやすい報告の工夫に期待したい。家族の来訪時には積極的に声をかけ、話しやすい関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来苑者への対応に心がけ、過ごしやすい環境作りを行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事(夏まつりなど)や趣味の会への参加の声かけを行っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時に苑での様子をお伝えしたり、苑だよりを定期的に発行し掲示している。苑での様子を写真に収めたものを運営推進会議で閲覧して頂いている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族様から訴えがある際は、職員間で共有し伝える事が出来るようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様・家族様双方の理解に努め、より良い関係作りを支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告させて頂いたり、苑内で掲示していることもあり。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	趣味の会や行事への案内を行い、家族様が交流して頂ける機会を作っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様の状態をお話ししながら、リスクについても一緒に説明を行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	挨拶を基本に、笑顔で話しかけるように心がけ意見や希望、近況を把握しては、ご家族様のケアにも努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度、説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行っている。退去先の情報提供も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の内訳を文書で示し、説明・同意を得ている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に地域の方に案内し、説明を行っているが、苑のことが具体的には理解できていない人もいらっしゃる。	/	◎	/	地域住民が気軽に事業所へ立ち寄ってもらえるような機会づくりの一つとして、ブローチづくりなどの手芸や、お菓子作りやお花見などの行事を共にする「趣味の会」を発足させ、親睦が深まりつつあり、今後も活動が継続できるよう期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的なあいさつを中心に行い、趣味の会を通じて地域の方と交流を図っている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	趣味の会や散歩を通じて、支援してくれる方が増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	趣味の会を通じて苑に来てもらったり、利用者とお話してくれている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時、挨拶をし合ったり、趣味の会を通じて苑に立ち寄りやすい雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	日常的な活動支援までは出来ていないが、趣味の会を通じて、利用者とお話される方が増えた。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近所のお祭りへの参加や地域の文化祭の展示を目標に作品を作り、本人の心身の力が発揮できるように努めている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	施設で行う文化祭時、学校や地域の方へ声かけを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	就労されている方も多く、参加の声かけはさせて頂くが強制はしないようにしている。	◎	/	○	運営推進会議には、家族や地域住民の参加が得られている。毎回事業所のリビングを会場にしているため、サービスの実際や評価への取り組み状況を利用者の普段の様子から見て、感じとってもらえている。参加者が固定化の傾向にあるため、継続して多方面に参加を呼びかけているところである。参加者同士の連携も深まってきており、防災についてのアイデアも出され、徐々に活発な会議になってきている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議での意見交換を参考に取り組んでいる。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	運営推進会議に参加しやすいように定期的に行い、日程は早めにお知らせするように心がけている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を作成し、各ユニットにおいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	法人・自施設の理念を作成し、掲示を行い、職員がケアに活かせるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	各ユニット掲示している。法人のホームページで閲覧できるようにしている。	○	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	資格や経験に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。				代表者は職員研修に力を入れており、事業所での勉強会を職員が持ち回りで講師役を務めることで、相互の学びが深まるようにしている。希望休などの働きやすい就業環境の整備にも配慮があり、職員からも働きやすい事業所であると声が聞かれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	月1回の勉強会を行っている。外部研修もやっている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が職員の状況を把握し、代表者に伝えている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	今治市のグループホーム交流会や勉強会に参加し、他事業所の取り組みを知る事により、職員の意識向上を行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	職員の希望休、リフレッシュ休暇の導入に努め、全事業所による交流として運動会や新年会をして交流の場を設けて職員間の連携につなげている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会のテーマに取り入れ、理解し、防止の徹底を図っている。				職員会で行っている勉強会でも虐待防止をテーマを設け、スピーチロックといった言葉での虐待など、職員同士で学びを深めている。職員の声かけが不適切なものにならないよう、管理者が注意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	会議の中で、ケアについて提起し考える機会を作ったり、日頃から疑問点など話し合うことを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアルがあり、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。職員は定期的な勉強会を受け周知徹底に取り組んでいる。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員1人1人への目配りや話をする機会を設けている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会で繰り返し取り上げて勉強し、理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束をしてはいけないという事を認識し、ユニット会や申し送り時に話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様に弊害について説明を行い、話し合いながら理解をして頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	勉強会や研修で学んでいるが、理解が不十分である。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	情報の提供を行っているが、具体的な相談にのる事が出来ていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時に連絡を関連機関と連携を取っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	実践できるようにマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書・ヒヤリハットの検討を行い、情報の共有・再発防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者1人1人の状態から考えられるリスクを検討し、事故予防に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルに基づき、苦情があった時の対応について検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。会話から不安と感じた際に、早めに対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった際は、真摯に受け止め、対策の検討を行い、経過や結果を伝えたり、話し合いを行うことの重要性を理解している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	窓口を設けることができている。	/	/	○	日常生活の中で利用者から希望を聞いたり、家族と積極的にコミュニケーションをとることで要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。職員からの相談事などは各ユニットリーダーを通してリーダー会議で検討され、状況によっては法人本部へ伝えられる仕組みがあり、運営に反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	窓口を設けることができている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	その都度情報提供を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	必要時に、直接話を聞くようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	リーダー会、ユニット会、担当者会議に参加することで活かしている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	サービス評価については各ユニットで自己評価を行い、全職員で積極的に取り組んでいる。運営推進会議では評価結果や目標達成計画について報告しており、見守ってもらっているが、さらに取り組みのモニターとして意見をもらい運営につなげて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を行うことにより、課題を明らかにし、現状をすることで意識統一を図る機会になっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	評価結果より実現可能な目標の設定を行い、達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	協力して頂けるご家族様に協力してもらっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成に向けた取り組みついて、達成度を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、勉強会の実施を行っている。	/	/	/	災害対策用のアセスメントやマニュアルを作成、訓練を実施し、避難先である中学校への避難経路の検討など、具体的な話し合いができていますが、訓練には家族や地域住民の参加がないため、今後の実施に期待したい。地域住民からは事業所を避難場所の一つとして提供してもらいたいとの要望があがっており、地域における事業所への期待は大きく、訓練や話し合いを通じて協力・支援体制を確保してもらいたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回、昼・夜間を想定して避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や非常食の定期的な点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	苑内での訓練は行っている。地域の災害時発生時の対応についての自治会の話し合いには参加し支援体制については意見交換をおこなってきている。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災会議に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の際に、認知症についての話を行っているが、介護教室や集まり等の講師はできていない。	/	/	/	手芸などを地域住民と共に行う「趣味の会」を通して、徐々に地域との交流が深まってきている。高齢化も進んでいるため、地域からの事業所に対する期待は大きく、相談支援の場として認知されることに期待したい。市や地域にある事業所などの関係機関との関係は良好であり、公民館などの地域活動を協働して行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方が趣味の会へ来られた際にお話を聞いたり、民生委員の方にお話を伺っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	趣味の会として、地域の方をお呼びしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学校の職場体験の要請があれば受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他事業所や医療機関と連絡を取り合い情報共有し連携を図っている。公民館の文化祭や体操教室に参加している。	/	/	○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月24日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
(ユニット名)	コスモス
記入者(管理者)	
氏名	藤原 裕子
自己評価作成日	平成 30 年 7 月 18 日

<p>【事業所理念】 「一緒に」「共に」を大切に、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「利用者一人ひとりの尊重、プライバシーへの配慮が出来る」では、勉強会を行いました。また、職員同士での声掛けを行いました。1人1人への気配りを行う職員が増えてきましたが、不十分な点も見受けられます。今後も、1人ひとりの尊重を考え対応していきたいと思えます。「サービス向上に活かせる運営推進会議を行う」では、地域の方への声掛けに力を入れています。少しずつですが、地域の方への参加も増えてきました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 高台に建つ事業所のリビングからは海が見渡せ、地域の花火大会を毎年室内で鑑賞することが、利用者や職員の楽しみのひとつとなっている。事業所全体が大変衛生的で整頓されており、利用者のケースファイルや会議録等の書類もきちんと整えられている。また、記録書類はどれも大変細かく丁寧に作成されており、誰が見ても分かりやすいよう整理されている。これまで課題と感じていた地域との交流についても、趣味の会を発足し、地域住民との活動が定着しつつあり、これからの地域交流が楽しみである。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	アセスメント確認時にご本人様へしたいことやどのように生活をしたいかなど伺いプランへ反映している。	◎	/	◎	利用者ごとの担当職員が定期的に内容を更新するアセスメント表には、利用者の希望や意向が丁寧に記載され、特徴がよく分かるようにまとめている。新しい情報は朱書きをすることで、他の職員との情報共有が容易にできるよう工夫されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	対応方法などをその都度変え状況の確認を行い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族様が来苑されたときに伺っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	話の中で出てきたことなどを記録に残し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人様の行動や言葉など観察を行い様々な対応が出来るように心がけている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	本人様や家族様より伺うように心がけているが不十分な事が多く、今後も引き続き聞き取りを行う必要あり。	/	/	◎	利用者や家族などからこれまでの暮らしの情報を聞き取り、アセスメント表に記入している。これまでの生活歴やこだわりなど、利用者が習慣としてきた暮らしのリズムが事業所でも継続できるように支援につなげ、毎朝のコーヒーと新聞が習慣である利用者が、同じように暮らしている様子が印象的であった。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人様のできること出来ないことを見極め、本人様のできることはできるだけご本人様にして頂くように心がけている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	時間や行動の際に不安な様子が見られる時には他職員にも情報の共有を行い他職員も把握が出来るように心がけている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	体調管理を行い、本人様の状態の確認を行っている。話し方などにも注意しそれぞれの対応に心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別生活援助を利用し定期的に見直しを行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	職員間や家族様との情報の共有を行っている。	/	/	◎	月2回のユニット会では、利用者ごとの担当職員が中心となり、他の職員からの意見を取り入れながらカンファレンスを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人様より訴えのあるときには傾聴し職員間でも話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月アセスメントの見直しを行い、話し合いをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人様より意向を聞き、話し合いを行い計画作成を行っている。	/	/	/	毎月利用者ごとの担当職員が、ケア行動計画チェック表でモニタリングを実施し、それらを踏まえて計画作成担当者が介護計画を作成している。担当者会議や家族の来訪時には意見を確認し、出された意見を介護計画へ反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人様の状態の変化や訴えのあるときには職員間だけでなく家族様にも伝え意見を頂くようにしている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	本人様の必要な介助を行い、本人様のペースで生活が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様への協力を実施しているが地域の方への協力が不十分である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	行動ケアチェック表やケース記録を使用し実施できている。	/	/	◎	介護計画の内容は個別生活援助記録で理解し、短期目標ごとにケア行動計画チェック表を用いて毎日確認し、毎月のモニタリングで確認している。介護記録には利用者の様子や発言が細かく具体的に記録され、支援を通じての職員の気づきや工夫アイデアの記載もある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	行動チェック表を使用し実施できている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	行動チェック表やケース記録を使用し本人の行動を記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	行動チェック表を使用しその日のことを記録している。気づき・工夫などユニット会で話し合い、記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月アセスメントの見直しや行動ケアチェック表を使用し評価の実施を行っている。	/	/	◎	3か月ごとに見直しを実施し、毎月利用者ごとの担当職員がモニタリングを実施し、現状を確認することで、小さな変化を見逃すことなく介護計画の見直しへつなげることができている。入退院などの状態に変化がある場合、随時関係者と見直しを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月評価を行い実施している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人様の状態の変化の見える時には相談や話し合いを行い必要時対応を行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会や担当者会議にて行っている。	/	/	◎	毎月開催する職員会や、月2回開催するユニット会で、利用者のケアに関することや業務の話し合いを行い、緊急案件があれば当日出勤者で即日話し合いを行っている。話し合った内容は会議録にまとめ、全職員に回覧し、確実に伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの発言を聞き、それぞれに対して話し合いを行う。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日出勤者にて実施。出席できない職員には前もって意見を聞いておき実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成し全職員が回覧できるように対応している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	回覧時には日付や印を押し線職員が回覧するまで声掛けを行っている。	/	/	◎	ユニット毎に申し送り帳というファイルを用意し、利用者についての伝達事項やリーダー会で話し合われた内容などの記載のほか、各種会議録も綴じられている。閲覧後に押印し、全職員に周知されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝、夕の申し送りや記録にて情報の共有が出来るように実施している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	声掛けを行い希望を聞き出来ることより実施している。	/	/	/	暮らしの様々な場面で、利用者が決定できるよう声かけを工夫し、利用者の反応や発言を聴いている。利用者の表情や発言を引き出すためにも、職員は積極的に声かけや話題の提供に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	声掛けを行い選択方法に工夫し本人様より答えやすいように実施している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人様の訴えを傾聴し、本人様が納得することができるような会話を心掛けている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	本人様が休みたい時など無理のないように本人様のペースに合わせて心掛けています。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人様が好きなことをすることができる時間を設けるように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人様の表情や行動にも注意し介助を行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	排泄・更衣・入浴などの際にプライバシーに配慮した対応が出来ているか確認しながら実施している。	◎	○	○	年に1回、接遇研修で人権や尊厳について学んでいる。大声になりやすかったり、配慮が十分でないと感じる場面もあり、努力していきたいとしている。居室への出入りについて、居室の全てを個人宅であるように扱い、ノックや挨拶はもちろん、本人に了承を得て一緒に入室するなどの適切な配慮が確認できた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人様の側に行き他者様への配慮に心掛けている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	カーテンなどを使用し実施している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室の際には声掛けを行うなどの配慮を行っている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を実施理解し実施できている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者様より教えて頂いたことや一緒にして頂いた時には感謝の気持ちを伝えるように心掛けています。	/	/	/	周りの利用者トラブルになりやすい利用者もいて、職員が介入したり、本人や他の利用者の状況を見ながら、他のユニットへの変更にも配慮している。リビングが広いので、他の利用者と距離を置きながらソファ席でくつろぐこともでき、利用者同士の関係や個々の気持ちを理解しながら、良好な関係への支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様より他利用者様へ言葉をかけて頂いたり話しかけて頂いた時には感謝をしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	レクリエーションや日々の生活を通じて役割を持つことが出来るように心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きないように注意し怒ったときにはすぐに対応することが出来るように心掛けている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の面談やその後の聞き取りで把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人様や家族様より聞き取りを行っているが、不十分な所がある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様の協力の下実施している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	来苑時にはゆっくりと話のできるような環境作りを行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ベランダや苑庭にて過ごすことが出来るように心がけている。	○	×	○	近くの神社のお祭りに出掛けたり、気候の悪い時期には、ドライブをして車窓からお花見をする等、利用者の体調に配慮しながら外出を楽しむ支援を行っている。重度の利用者も他の利用者と同じように事業所のテラスでおやつを食べたり、玄関で手持ち花火を楽しんだりして、外の空気を吸って気分転換が図れるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方やボランティアの方との関わりが不十分なために今後実施していくことが出来るように活動の必要あり。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日にはベランダや苑庭にて過ごすことが出来るように心がけている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様の協力で、外出することができている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を実施し、認知症について理解し、対応するよう心がけている。	/	/	/	利用者ができることやできそうなことについてアセスメントでよく理解しており、生活の中でできることをやらせたり、広いリビングやテラス・ベランダなどを活用して訓練や体操を一緒に行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	身体機能低下について理解した上で、必要な支援を行い、日常生活の中で機能の維持が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	本人様のできることを理解し、継続して行うことが出来るように見守り声かけを行っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人様や家族様より聞き取りを行い実施できるように声掛けを行っている。	/	/	/	アセスメントで確認し、利用者がそれぞれに持つ習慣や好みに合わせた暮らしを支援できている。得意な家事ができる場面では、生き活きた利用者の表情が見られている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人様の得意なことをすることができる機会を設けるよう配慮し心がけている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との関わりが少なく、張り合いが持てる所まで出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人様の好まれる服を選んでいただくことが出来るように心がけている。				入居時に理美容についての希望を確認し、家族の協力も得ながら衣替えを行い、季節に応じた身だしなみを支援している。食べこぼしなどが見られても、周囲にさとられないようさりげなく対応する様子が見られた。重度な状態であってもアセスメントで希望を確認し、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	本人様より身支度や服を選んでいただき自身のできることは自らして頂くことが出来るように心がけている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人様の選択のしやすいような質問を行い実施している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	本人様の好む服を着て頂くことが出来るように介助を行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声掛けを行い衣類の交換や整容の乱れを直している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	家族様の協力にて実施できている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	その人の好みなどを推し測り、その人らしさが感じられるように支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の大切さや、美味しく食べれるように支援している。				調理済のメニューが配達され、炊飯のみ事業所で行っているため、利用者の好みを取り入れることや日常的に調理を共にする機会は少なく、おやつ作りの日を設けることで共に作業を楽しむ工夫をしている。好みや苦手なもの、アレルギーの有無についてアセスメントできており、事業所で栽培した旬の野菜を取り入れるなどの工夫がある。食器は好みのものを持参してもらい、自由に使っている。職員は個人で食事を用意し、食事介助や見守りを行いながら食事を共にしている。重度な状態であっても、配膳される食事の香りや、献立を読み上げながら楽しみに待っている姿が見られた。栄養士による栄養バランスの良い献立であるが、給食会議で内容を話し合ったり、ユニット会ではご飯の水加減などの具体的な話し合いが行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	本人様より好まれる料理などをお聞きしている。おやつ作りを一緒に行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物の時には意見をお聞きする。調理などは本人様のできることを見つけ手伝って頂くことができるような声掛けを行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	毎日の食事の際などに好まれる料理などをお聞きしている。入所時にはアレルギーの有無の確認を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	利用者様に意見を聞き、給食会議の際に伝える。アレルギーは他の食材にて対応を行う。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者様の状態を把握し、食事前に口腔体操を行い嚥下などには注意をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	スプーンの使用やプラスチックの食器などにて対応を行っている。使い慣れたお箸を使用している方もいらっしゃる。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	必要時には側に寄り添って声掛けや介助を行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	献立を伝え、楽しみにしてもらえるような声掛けを行っている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	声掛けや必要時介助を行い実施している。記録を残し、把握できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	声掛けやを行ったり介助を行っている。必要時定時の水分補給以外にも提供している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士より献立の作成をして頂いている。また、施設内で話し合った事を給食会議で伝え、意見交換を行っている。			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食事作りの前には消毒の実施を行っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を実施している。	/	/	/	全利用者の口の中の健康状況について、アセスメントシートに細かく記載され、セルフケアが可能な利用者についても、定期的に職員がチェックしている。毎食後歯磨きなどの口腔ケアを行い、できることは自分でやってもらいながら口腔内の清潔支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	一人一人の状態の把握が出来るように観察を行っている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	施設内での勉強会で学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	見守り、声掛けを行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	口腔ケア時に見守りを行い状態の観察を行い実施している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	必要時には家族様に連絡し対応を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会を実施。理解できるように職員間での情報交換を行っている。	/	/	/	ユニット会で排泄用品の必要性や適切性について話し合っている。排泄介助や声かけで、トイレでの自然排泄ができています。ユニットに4か所あるトイレの出入口は、車椅子の利用者が1人で開閉できるよう、ドアとアコーディオンカーテンが設置されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	勉強会や看護師より指導して頂いている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄表にて確認し実施している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人様の状態に合わせてトイレ誘導や介助を行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で話し合いを行い実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を確認時実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人様の好みものを使用して頂き必要時家族様にも協力して頂いている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その方々一人一人に合わせて対応し実施している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	身体を動かして頂く機会を設けたり水分摂取量を把握し注意している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴時には本人様のペースに合わせて入浴の実施が出来るように心がけている。	◎	/	○	入浴の希望や湯温度などに配慮しながら支援している。一般浴槽だけでなく、車椅子のまま入れる特殊浴槽も備えており、利用者の身体状況や希望によって使い分けられている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴時には本人様がゆっくりといただくことが出来るように本人様のペースに合わせての入浴を実施している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人様のできることは本人様にして頂くことができるような声掛けを行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否の見られる時には本人様の話を聞きゆっくりと話をする時間を設け必要時には時間や順番を変更するなどの対応を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認や本人様の状態の確認を行い実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	申し送りなどで情報の共有を行い実施している。	/	/	/	習慣的に安定剤を服用していた利用者もいるが、不眠の原因を職員間で分析し、生活リズムを見直している。主治医に相談して減薬したり、服薬を中止できた利用者もあり、総合的な支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	声掛けを行ったりゆっくりと本人様を話をして落ち着いて頂いたり、日中身体を動かして頂くなどの指導を行っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の活動量が増えるように心がけたり必要時には看護師に状態の報告を行い対応を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様より訴えのあるときにはその都度対応を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族様より電話などして頂いている時には対応を行い、また手紙などは本人様に手渡すなどし対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	声掛けを行い実施している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話時には対応に注意している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人様に説明し手渡している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族様に協力して頂き実施できている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持することや、遣うことの意味や大切さを理解はしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要時には家族様の協力の元実施している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	実施できていない。買い物の希望を言われる方が少ない状況である。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	利用者同士トラブルの危険性が高いため、所持しないようお願いしている。今後、お金の所持については、ご家族様とも相談していく。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金規程で決めている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	ご利用者やご家族のニーズに沿う努力はしているが、難しい時もあり、ご家族様に協力して頂くことも多い。	◎	/	○	自宅での暮らしが継続できるよう新聞を購読したり、コーヒーなどの嗜好品の買い物を家族の協力を得て行っている。利用者や家族の状況に応じて柔軟にサービスを検討する姿勢を持っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	入りやすいよう配慮している。	◎	◎	○	草引きや植物の植え込みなどの手入れが行き届き、玄関回りは清潔に整えられている。出入口は開放してあるため気軽に出入りでき、スリッパなどを準備してもてなしの雰囲気を感じられる
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	本人様の慣れ親しんだものなど持って来ていただき対応している。壁画など楽しむことができるように定期的に交換している。	◎	○	○	事業所全体が大変衛生的で整頓されており、季節に応じた工作物を利用者と一緒で作成し、各居室出入口に飾ってある。リビングの大きなガラス窓からは、しまなみ海道を眺めることができ、ソファなどを置いてくつろぎのスペースも設けている。訪問日が花火や祭りのシーズンであったため、季節感のある壁絵が作成され、会話が盛り上がっていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を行い実施している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁画など定期的に交換し季節感を楽しく頂くことができるように行っている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	テーブル席の配置を考えたり、ソファなどを使って頂き対応を行っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンなどを使用し配慮している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族様の協力にて実施している。新聞の購読や人形を飾られたり、本人様が習慣とされていた事は苑でも続けられるようにしている。	◎	/	○	すっきりとした中にも利用者の好みの物を持ち込み、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。ひきこもり防止、認知症の進行抑制の目的で、できるだけ居室にはテレビを置かないようにしている。畳部屋もあり、利用者の状況に応じた環境を整えている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	本人様に合わせてベッドを使用してもらったり畳を使ったりして対応している。	/	/	/	手すりや電動ベッド、トイレドアに設置したアコーディオンカーテンなど、利用者ができることを継続しながら生活できるよう努めている。トイレは大きめの文字で表示し、わかりやすいように工夫していた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人様がわかりやすいものを使用したり配置するようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	本人様の好むものは本人様に管理をしてもらったり家族様の協力にて実施。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	勉強会や日々の話し合いにて理解しているが、近年、今治市内での不審者が相次ぎ、施錠を行っている時もある。	◎	◎	◎	日中は玄関の施錠はなく、職員も施錠しない環境での支援に慣れている様子である。職員は、ユニットから出ようとしている利用者にとっと寄り添い、別のユニットへ行って気分転換を図る等の支援を行っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	地域において解放された施設であることの必要性を説明している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	見守り、声掛けを行っている。また、一緒に外出を行い、気分転換を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	アセスメントを行い職員間でも情報の共有をしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	情報共有を行い対応時にはケース記録などに記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師にマメに報告を実施している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診報告書にて情報の共有を行っている。本人様や家族様の希望されている病院に受診して頂いている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族様や本人様の希望する病院を受診されて必要時には看護師より情報の提供を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診時には報告を受け受診報告書を作成している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	必要時情報提供を作成している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	必要時情報提供を行い、病院に行き様子を観察している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	病院に行き状態の確認を行い、病院関係者より情報の提供をして頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気が付いたことや必要時には看護師に報告し指示をもらったり看護師より医療機関に情報提供して頂いている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	必要時電話などにて指示を受けることができる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェックの実施。状態観察の実施。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	看護師より説明して頂き理解することが出来るように行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬ボードなどを使用し実施している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排便の確認を行ったり、状態の確認を行い変化に注意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬の内容変更時など特に注意し変わったことがあったときにはその都度看護師に報告し指示をもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族様へ報告し必要時には相談を実施している。	/	/	/	事業所には特殊浴槽もあり、身体的な重度化には対応が可能であるが、医療的な処置が必要な状況になった場合は家族とも相談し、医療機関等へ移っている。事業所での看取りは実施しておらず、その点については入居時に利用者や家族へ説明している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族様を通じてかかりつけ医院などに相談して頂いている。看護師から病院への連絡も行っている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	利用者様の状態を把握し、必要時家族様への説明や職員への説明を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	その時々に必要な説明を実施している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族様を通じて医療機関への協力を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	必要時傾聴を行い実施している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会にて対応方法や注意することなどを学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会を実施して行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	テレビや新聞やインターネットなどを使用し情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	新聞やテレビやインターネットや周りからの情報を入手している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	声掛けを行い実施している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族様より訴えのあったときにはゆっくり話を聞くことが出来るように対応している。	/	/	/	家族や友人が会いに来ることもあり、行事や趣味の会への参加を呼びかけ活動を共にする機会を作っている。毎月、写真入りの苑だよりを家族に送り、何かあった際には速やかに電話連絡を行っている。運営推進会議やサービス評価の取組みについては、自由に閲覧してもらえるよう掲示しているが、実際に目を通して家族が少ない現状であるため、今後はより伝わりやすい報告の工夫に期待したい。家族の来訪時には積極的に声をかけ、話しやすい関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来苑者への対応に心掛け、過ごしやすい環境を提供できるように心掛けている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	毎月趣味の会を行い実施している。また、行事への呼びかけも行っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話などにて定期的に報告をしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族様より訴えのあるときには職員間でも共有し伝えることが出来るように心がけている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人様の状態を伝えたり対応方法などを伝え対応している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の際に報告を行っている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	運営推進会のお誘いや趣味の会への参加の声掛けを行っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	その都度家族様に説明を行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	声掛けを行い家族様が気軽に話をする事ができるような環境作りを行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	説明を行い対応している。退去先の情報提供も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	必要時説明を行い同意を頂いている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に地域の方に案内し、説明を行っているが、苑の事が具体的には理解でいていない人もいる。	/	◎	/	地域住民が気軽に事業所へ立ち寄ってもらえるような機会づくりの一つとして、ブローチづくりなどの手芸や、お菓子作りやお花見などの行事を共にする「趣味の会」を発足させ、親睦が深まりつつあり、今後も活動が継続できるよう期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日々の挨拶の実施。趣味の会に参加の声掛け。地域の防災会議に参加。地域の文化祭に作品の展示、見学している。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	趣味の会や散歩を通じて、支援してくれる方が増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	趣味の会を通じて苑に来てもらったり、利用者とお話してくれている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時、挨拶をし合ったり、趣味の会を通じて苑に立ち寄りやすい雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	日常的な活動支援までは出来ていないが、趣味の会を通じて、利用者とお話される方が増えた。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近所のお祭りへの参加や地域の文化祭の展示を目標に作品を作り、本人の心身の力が発揮できるように努めている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	施設で行う文化祭時、学校や地域の方へ声かけを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	声掛けを行い実施している。	◎	/	○	運営推進会議には、家族や地域住民の参加が得られている。毎回事業所のリビングを会場にしているため、サービスの実際や評価への取組み状況を利用者の普段の様子から見て、感じとってもらえている。参加者が固定化の傾向にあるため、継続して多方面に参加を呼びかけているところである。参加者同士の連携も深まってきており、防災についてのアイデアも出され、徐々に活発な会議になってきている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	運営推進会の時に報告を実施。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会の時に報告を実施。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	趣味の会などを合わせて実施し季節に合わせた対応を心掛けている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録作成し、各ユニットにおいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を理解しそれに基づいて日々実践できるよう心掛けている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットに掲示している。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	勉強会に参加したり、市のグループホームの集まりに定期的に参加している。	/	/	/	代表者は職員研修に力を入れており、事業所での勉強会を職員が持ち回りで講師役を務めることで、相互の学びが深まるようにしている。希望休などの働きやすい就業環境の整備にも配慮があり、職員からも働きやすい事業所であると声が聞かれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	勉強会の実施。研修などに参加の声掛けの実施。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職員の話聞き対応を心掛けている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	市内のグループホームの集まりに参加。研修への参加。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	話を聞く機会を設けている。また、法人での運動会や新年会を行っている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会を行い職員間で声掛けを行っている。	/	/	/	職員会で行っている勉強会でも虐待防止をテーマを設け、スピーチロックといった言葉での虐待など、職員同士で学びを深めている。職員の声かけが不適切なものにならないよう、管理者が注意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	声掛けを行い必要時話し合いを実施している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルがあり、いつでも閲覧できるようにしている。職員は定期的な勉強会を受け周知徹底に取り組んでいる。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員と話をする機会を設け実施している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会を行い実施している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会やユニット会議にて実施している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様へ説明を行い実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会や研修にて実施している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	管理者を通じて実施している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時対応を行っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアル作成し勉強会を実施している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会や研修にて対応行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	その都度話し合いを行い職員間で情報共有できるように回覧を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者様の状態に合わせて話し合いを行い実施している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアル作成しその都度対応を行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	報告を実施している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	必要時相談、報告を実施している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や個々にて対応行っている。	/	/	○	日常生活の中で利用者から希望を聞いたり、家族と積極的にコミュニケーションをとることで要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。職員からの相談事などは各ユニットリーダーを通してリーダー会議で検討され、状況によっては法人本部へ伝えられる仕組みがあり、運営に反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入所時や運営推進会議にて個々にて相談できることを伝えている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	その都度対応を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	◎	定期的実施したり、必要時に実施している。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	必要時話を聞く機会を設け話し合いの際には話のしやすい環境作りを心掛けている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム亀天福寿苑

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回実施している。				サービス評価については各ユニットで自己評価を行い、全職員で積極的に取り組んでいる。運営推進会議では評価結果や目標達成計画について報告しており、見守ってもらっているが、さらに取り組みのモニターとして意見をもらい運営につなげて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	その都度対応し必要時には話し合いや勉強会の開催をしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果より実現可能な目標の設定を行い、達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	目標達成計画を伝えているが、協力して頂ける家族様のみになっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成に向けた取り組みについて、達成度を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルの作成。勉強会の実施。				災害対策用のアセスメントやマニュアルを作成、訓練を実施し、避難先である中学校への避難経路の検討など、具体的な話し合いができていますが、訓練には家族や地域住民の参加がないため、今後の実施に期待したい。地域住民からは事業所を避難場所の一つとして提供してもらいたいとの要望があがっており、地域における事業所への期待は大きく、訓練や話し合いを通じて協力・支援体制を確保してもらいたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回訓練の実施。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の防災会議に参加している。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災会議に参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の際に、認知症についての話を行っているが、介護教室や集まり等の講師はできていない。				手芸などを地域住民と共に行う「趣味の会」を通して、徐々に地域との交流が深まってきている。高齢化も進んでいるため、地域からの事業所に対する期待は大きく、相談支援の場として認知されることに期待したい。市や地域にある事業所などの関係機関との関係は良好であり、公民館などの地域活動を協働して行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の民生委員の方に訪問したり必要時対応行っている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	趣味の会として、地域の方をお呼びしている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学校より職場体験など要請があれば受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他事業所や医療機関と連絡を取り合い情報共有し連携を図っている。公民館の文化祭や体操教室に参加している。			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月24日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 21名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870200676
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	藤原 裕子
自己評価作成日	平成 30 年 7 月 18 日

<p>【事業所理念】 「一緒に」「共に」を大切に、私たちは支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「利用者一人ひとりの尊重、プライバシーへの配慮が出来る」では、勉強会を行いました。また、職員同士での声掛けを行いました。1人1人への気配りを行う職員が増えてきましたが、不十分な点も見受けられます。今後も、1人ひとりの尊重を考え対応していきたいと思います。 「サービス向上に活かせる運営推進会議を行う」では、地域の方への声掛けに力を入れています。少しずつですが、地域の方への参加も増えてきました。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 高台に建つ事業所のリビングからは海が見渡せ、地域の花火大会を毎年室内で鑑賞することが、利用者や職員の楽しみのひとつとなっている。事業所全体が大変衛生的で整頓されており、利用者のケースファイルや会議録等の書類もきちんと整えられている。また、記録書類はどれも大変細かく丁寧に作成されており、誰が見ても分かりやすいよう整理されている。これまで課題と感じていた地域との交流についても、趣味の会を発足し、地域住民との活動が定着しつつあり、これからの地域交流が楽しみである。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ご本人様に伺ったり意思の疎通が難しい方は家族様の話をもとに意向をくむ様にしている。	◎	/	◎	利用者ごとの担当職員が定期的に内容を更新するアセスメント表には、利用者の希望や意向が丁寧に記載され、特徴がよく分かるようにまとめている。新しい情報は朱書きをすることで、他の職員との情報共有が容易にできるよう工夫されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者の思いを考え、ユニットで話し合いを行っている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	面会時や電話連絡の際に、話を伺っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	利用者についての気づきを申し送り帳やユニット会議事録に残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人様の行動や言葉等から観察を行い、コミュニケーションを図り対応している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	ご本人様との日々のコミュニケーションや家族様との関わりの中で好きなことやしていたことなどをできるように努めている。	/	/	◎	利用者や家族などからこれまでの暮らしの情報を聞き取り、アセスメント表に記入している。これまでの生活歴やこだわりなど、利用者が習慣としてきた暮らしのリズムが事業所でも継続できるように支援につなげ、毎朝のコーヒーと新聞が習慣である利用者が、同じように暮らしている様子が印象的であった。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	アセスメントを活用し、出来る事と出来ない事を見極め、本人様に出来そうな事はして頂いている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	体調や本人様の状態の確認を行い、ユニット職員で話し合い対応している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	本人様の状態の把握を行い、職員間での把握を行っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個別生活援助を活用している。日中・夜間の様子を観察し、過ごした方を知る事で、変化に気づけるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ユニット会で意見交換を行い自立支援の視点を重視している。	/	/	◎	月2回のユニット会では、利用者ごとの担当職員が中心となり、他の職員からの意見を取り入れながらカンファレンスを行っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	介護職・医療職・家族様と一緒に情報を共有し、支援について検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	検討した内容に基づいて課題の抽出を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の意向を伺い、介護計画書に反映している。	/	/	/	毎月利用者ごとの担当職員が、ケア行動計画チェック表でモニタリングを実施し、それらを踏まえて計画作成担当者が介護計画を作成している。担当者会議や家族の来訪時には意見を確認し、出された意見を介護計画へ反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	アセスメント、個別支援計画を毎月見直し担当者会議を開催することでケアプランを作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	その人らしさを失わない事に留意し、本人様のペースでの生活が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様への協力を実施しているが、地域の方への協力が不十分である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護経過支援記録書の確認・記入により把握している。	/	/	◎	介護計画の内容は個別生活援助記録で理解し、短期目標ごとにケア行動計画チェック表を用いて毎日確認し、毎月のモニタリングで確認している。介護記録には利用者の様子や発言が細かく具体的に記録され、支援を通じての職員の気づきや工夫アイデアの記載もある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護経過支援記録を毎日記入し毎月評価している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	実施記録で項目別に個別記録をしている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	利用者の様子を主に記入しているが、気づきを書くように努力している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間を確認してきている。	/	/	◎	3か月ごとに見直しを実施し、毎月利用者ごとの担当職員がモニタリングを実施し、現状を確認することで、小さな変化を見逃すことなく介護計画の見直しへつなげることができている。入退院などの状態に変化がある場合、随時関係者と見直しを行い、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	アセスメント記録・個別生活援助記録・支援記録を活用している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	計画を作成し必要時には区分変更申請の手続きも行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会、職員会、また事故発生時などミーティングを実施している。	/	/	◎	毎月開催する職員会や、月2回開催するユニット会で、利用者のケアに関することや業務の話し合いを行い、緊急案件があれば当日出勤者で即日話し合いを行っている。話し合った内容は会議録にまとめ、全職員に回覧し、確実に伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの発言を聞き、それぞれに対して話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	当日出勤者にて会議を行っている。出席できない職員には前もって意見を聞き、実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録に残し、閲覧してもらうことで周知させている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートへの記入、ユニット会の活用が出来ている。	/	/	◎	ユニット毎に申し送り帳というファイルを用意し、利用者についての伝達事項やリーダー会で話し合われた内容などの記載のほか、各種会議録も綴じられている。閲覧後に押印し、全職員に周知されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日の生活記録の申し送り事項に記録できている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	レクリエーションの参加を無理にせず、本人様の意向を大切にしている。本人様からの訴えが少ない状態である。	/	/	/	暮らしの様々な場面で、利用者が決定できるよう声かけを工夫し、利用者の反応や発言を聴いている。利用者の表情や発言を引き出すためにも、職員は積極的に声かけや話題の提供に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声かけの仕方でも本人様の意向や希望を聴くように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	二者択一で答えてもらうような声掛けや分かりやすい言葉を使い、決めて頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースに合わせて、無理強いないようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	職員のほうから積極的に声かけし話題の提供も行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人様の表情や行動に注意しながら支援を行っている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	定期的な勉強会での学びを活かし配慮している。	◎	○	○	年に1回、接遇研修で人権や尊厳について学んでいる。大声になりやすかったり、配慮が十分でないと感じる場面もあり、努力していきたいとしている。居室への出入りについて、居室の全てを個人宅であるように扱い、ノックや挨拶はもちろん、本人に了承を得て一緒に入室するなどの適切な配慮が確認できた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	難聴の方もいらっしゃる中で周囲への配慮に欠けているときがあると思う。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	ドアやカーテンを閉める。視線に気を付ける事などに注意している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	一人一人の居室を個人宅だと思い配慮に努めている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を実施し、知り得た情報を口外しないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者の方から教えて頂いたり、一緒にして頂いた際は、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	周りの利用者とトラブルになりやすい利用者もいて、職員が介入したり、本人や他の利用者の状況を見ながら、他のユニットへの変更にも配慮している。リビングが広いので、他の利用者と距離を置きながらソファ席でくつろぐこともでき、利用者同士の関係や個々の気持ちを理解しながら、良好な関係への支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお話している際の表情を見て、大切である事を実感している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置にし、職員が見守り時には介入し、和気あいあいとした雰囲気になるようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きないように前もって対応をしている。トラブルが起きた際は、すぐに仲に入り対応をしている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の面談やその後の聞き取りにて、人間関係を把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人様やご家族様から話を伺っているが、不十分な所もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族様の協力のもとで出来ている方もいらっしゃるが、出来ない方もいらっしゃる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	来苑時にはゆっくりとお話が出来るように配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	インフルエンザの時期になると外出や面会を制限している。天候に合わせてと事が多いが家族様にも病院受診時など利用して協力していただきながら戸外に出られるように取り組んでいる。苑では戸外食や苑庭での日光浴、散歩など行っている。	○	×	○	近くの神社のお祭りに出掛けたり、気候の悪い時期には、ドライブをして車窓からお花見をする等、利用者の体調に配慮しながら外出を楽しむ支援を行っている。重度の利用者も他の利用者と同じように事業所のテラスでおやつを食べたり、玄関で手持ち花火を楽しんだりして、外の空気を吸って気分転換が図れるよう工夫している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	家族様の協力のみでの外出支援となっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調面に特に配慮しながら気候の良い時期での戸外食や苑庭を利用した日光浴に努めている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人様の希望を聞いた際は、ご家族様に伝え実施している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を実施し、認知症について理解し、対応するよう心がけている。	/	/	/	利用者ができることやできそうなことについてアセスメントでよく理解しており、生活の中でできることをやってもらったり、広いリビングやテラス・ベランダなどを活用して訓練や体操を一緒に行っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	身体期のう低下について理解した上で、必要な支援を行っている。日常生活の中で気のう維持を図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自立支援を意識して声かけを中心にご自分でできるように支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人様の得意とすることを願っている。	/	/	/	アセスメントで確認し、利用者がそれぞれに持つ習慣や好みに合わせた暮らしを支援できている。得意な家事ができる場面では、生き活きた利用者の表情が見られている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	ご利用者様の生活歴や好きな事、したいことを取り入れることで暮らしやすさを感じてもらえるように配慮している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中での役割や出番が出来るところまでの地域との関わりが出来ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人様の好まれる洋服を選んで頂くようにしている。	/	/	/	入居時に理美容についての希望を確認し、家族の協力も得ながら衣替えを行い、季節に応じた身だしなみを支援している。食べこぼしなどが見られても、周囲にさとられないようさりげなく対応する様子が見られた。重度な状態であってもアセスメントで希望を確認し、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	髪型・服装・持ち物など、本人様に伺い尊重しているが、重度の方に関しては、憶測で支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	本人様の選択しやすいような質問を行い実施している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合った洋服や本人様の好む洋服を着て頂くように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	朝、モーニングケアを行っている。汚れた時には着替えなど行うようにしている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	なじみのお店があるかどうかを伺い、自由に行って頂いている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	苑での散髪を利用して頂くこともあり、ご本人の希望の髪形を確認したり、場合によっては家族様に教えて頂くこともあり。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さや美味しく食べられるように支援している。	/	/	/	調理済のメニューが配達され、炊飯のみ事業所で行っているため、利用者の好みを取り入れることや日常的に調理を共にする機会は少なく、おやつ作りの日を設けることで共に作業を楽しむ工夫をしている。好みや苦手なもの、アレルギーの有無についてアセスメントできており、事業所で栽培した旬の野菜を取り入れるなどの工夫がある。食器は好みのものを持参してもらい、自由に使っている。職員は個人で食事を用意し、食事介助や見守りを行いながら食事を共にしている。重度な状態であっても、配膳される食事の香りや、献立を読み上げながら楽しみに待っている姿が見られた。栄養士による栄養バランスの良い献立であるが、給食会議で内容を話し合ったり、ユニット会ではご飯の水加減などの具体的な話し合いが行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理やおやつ作りの際に、出来る事を一緒にして頂いている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理やおやつ作りの際に盛り付けや、一緒に作って頂き、達成感や満足感につなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アセスメントや観察にて、個々のアレルギーや嗜好を把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者様の好みを中心に考えた食事を提供しており、季節の食材も取り入れ、苑で取り入れた野菜も提供するようにしている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	その日の状態に合わせた調理方法によって提供している。目で見える事も大切に、盛り付けも丁寧に行っている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	ご本人様の状態に合わせて選んでいる。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	介助が必要な方に対して、食卓を囲んでフロア全体を見守り支援を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立を紹介したり、においからメニューを当てたり雰囲気が和む様に配慮している。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1日の摂取量の記録を行い、把握している。摂取量が少ない場合は、声掛けを行い摂取して頂くようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人が食べやすい形状での提供や、定時以外の水分の提供を行っている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	給食会議にて栄養士にも相談したメニューを考え提供させてもらっている。	/	/	◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	定期的に布巾や食器の消毒を行っている。食事前の手洗いや食事前のエプロン着用を行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会を実施し、口腔ケアの必要性を理解している。	/	/	/	全利用者の口の中の健康状況について、アセスメントシートに細かく記載され、セルフケアが可能な利用者についても、定期的に職員がチェックしている。毎食後歯磨きなどの口腔ケアを行い、できることは自分でやってもらいながら口腔内の清潔支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	特に食事中や口腔ケア時に観察している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	勉強会のみである。歯科受診に行かれた際は、指示を確認し実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	1日3回の手入れと、夜間は義歯洗浄剤を使用している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の口腔ケア時にチェックし必要な時には介助も行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	不具合を発見した際は、看護師に報告し、必要時は受診をしてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や日々のケアを通じて、排泄の自立の大切さを共有している。	/	/	/	ユニット会で排泄用品の必要性や適切性について話し合っている。排泄介助や声かけで、トイレでの自然排泄ができています。ユニットに4か所あるトイレの出入口は、車椅子の利用者が1人で開閉できるよう、ドアとアコーディオンカーテンが設置されている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会や看護師より指導を受けている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用し、把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ユニット会で定期的に意見交換を行いながら、オムツの使用や種類を検討している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	職員間で情報交換し、改善策を検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を活用し、個々の状況に応じて声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ・パッドの使用方法について、職員間で話し合い、ご家族様にも相談する。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	尿量・回数を把握した上で、各利用者様に合った使用をしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘予防の為、水分摂取や腸のマッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	本人様のペースに合わせて入浴の実施が出来るようにしている。温度も本人様に伺いながら行っている。	◎	/	○	入浴の希望や湯温度などに配慮しながら支援している。一般浴槽だけでなく、車椅子のまま入れる特殊浴槽も備えており、利用者の身体状況や希望によって使い分けられている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	ゆったりとした入浴時間の確保に努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事は本人様にして頂くような声掛けを行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否される場合は、本人様のお話をじっくりと聞き、時間や順番、日にちの変更をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認や本人の状態の確認を行っている。入浴後の体調変化にも気を付けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	記録に残し、申し送りを行う事で、パターンの共有をおこなっている。	/	/	/	習慣的に安定剤を服用していた利用者もいるが、不眠の原因を職員間で分析し、生活リズムを見直している。主治医に相談して減薬したり、服薬を中止できた利用者もあり、総合的な支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活状況を把握し、日中、活動的に生活できるように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠状況を確認しながら、不眠時には原因の分析を行い薬剤の使用は最終手段として担当医へご相談させていただいている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人様の訴え時や状態に応じて、休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様が電話をしたいと言われた際は、職員が付き添い電話を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	手紙が届いた際は、本人様にお渡しし、返事をどうしたいかを確認している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話をされる際は、ゆっくり話が出来るように椅子に座って頂き、話しやすい環境を作っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人様にお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご家族様にも理解して頂き、電話をしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を所持することや、遣うことの意味や大切さを理解しているが、利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	実施できていない。必要時は、ご家族の協力のもと行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	実施できていない。買い物の希望を言われる方が少ない状況である。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	トラブルの危険性が高い為、所持しないようお願いをしている。今後、お金の所持については、ご家族様とも相談をしていく。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	利用者様が金銭管理が出来ない方が多く、トラブルになる危険性が高いため、所持しないようお願いしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金規程を決めている。実際、お金の所持は行っていない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	ご利用者様やご家族様のニーズに添う努力はしているが難しい時もあり、ご家族様に協力して頂くことも多い。	◎	/	○	自宅での暮らしが継続できるよう新聞を購読したり、コーヒーなどの嗜好品の買い物を家族の協力を得て行っている。利用者や家族の状況に応じて柔軟にサービスを検討する姿勢を持っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	定期的に苑庭や苑周辺の草引きや掃除を行っており、入り口や駐車スペースをは開放し誰でも気軽に立ち寄れるようにしている。	◎	◎	○	草引きや植物の植え込みなどの手入れが行き届き、玄関回りは清潔に整えられている。出入口は開放してあるため気軽に出入りでき、スリッパなどを準備してもてなしの雰囲気を感じられる	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	毎月、居室や壁画の飾りは季節に合ったものへ変更している。季節の花を飾ることもあり。窓からの景色が良いので天気の良い日はしなみの景色を楽しんでいただき解放感を感じてもらえるようにしている。	◎	○	○	事業所全体が大変衛生的で整頓されており、季節に応じた工作物を利用者と一緒で作成し、各居室出入口に飾ってある。リビングの大きなガラス窓からは、しまなみ海道を眺めることができ、ソファなどを置いてくつろぎのスペースも設けている。訪問日が花火や祭りのシーズンであったため、季節感のある壁絵が作成され、会話が盛り上がっていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、換気や掃除を行っておりご利用者様からの苦情はみられない。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	ホールを季節が感じてもらえるような装飾に毎月変更している。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	共有スペースにソファは配置し、ゆっくりと過ごせるようにしている。ソファに1人で座られたりと過ごされる方もいらっしゃる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテンを使用し、プライバシーの保護をおこなっている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族様に協力して頂き、ご本人様が好んで着られていた服を持ってきていただいたり、習慣とされていたことは苑でも続けてもらえるようにしている。(新聞を読む、コーヒーを飲む、人形などを飾る)	◎			すっきりとした中にも利用者の好みの物を持ち込み、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。ひきこもり防止、認知症の進行抑制の目的で、できるだけ居室にはテレビを置かないようにしている。畳部屋もあり、利用者の状況に応じた環境を整えている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すりの使用、電動ベッドの活用、一般浴と特殊浴の使い分けを行い、ご利用者様の心身の状態に配慮している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	本人様が分かりやすい物を使用したり、配置するようにしている。				手すりや電動ベッド、トイレドアに設置したアコーディオンカーテンなど、利用者ができることを継続しながら生活できるよう努めている。トイレは大きめの文字で表示し、わかりやすいように工夫していた。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	本人様の好むものは、居室に置かれたり、フロアに置かれ、ご自分の好きな時に使用している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	勉強会や日々の話し合いの中で、玄関に鍵をかける事の弊害は理解出来ているが、近年、今治市内での不審者が相次ぎ、施錠を行っている時もある。	◎	◎	◎		日中は玄関の施錠はなく、職員も施錠しない環境での支援に慣れている様子である。職員は、ユニットから出ようとしている利用者にとっと寄り添い、別のユニットへ行って気分転換を図る等の支援を行っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	地域において解放された施設であることの必要性を説明している。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	見守りや声掛けを行っている。また、一緒に外出を行い、気分転換を図っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントを行い、職員間での情報共有を行っている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	平常の様子を知る為、様子観察を行い、変化に気づけるようにしている。日々の状態を記録できている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になる事があれば看護師に連絡をしている。看護師から、かかりつけ医に連絡が出来るよう情報提供表を書いてもらい、病院に渡している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	往診を希望される方には往診を利用して頂いているが、かかりつけ病院がある方には入所後も継続してご家族様と一緒に通院している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師に情報提供書作成してもらい、医療との連携を図り、適切な医療を受けられるようい支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診・服薬後の様子を家族様に報告し、その後の通院についても話し合いを行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、サマリーを作成し、情報提供をしている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院に様子伺いを行い、病院関係者と情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医師から薬についてなど、電話連絡・お手紙を頂く事もできている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	気づいたことや必要時には看護師に報告し、指示をもらっている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	必要時、電話などにて指示を受ける事が出来ている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定を実施し、体調管理に努めている。異常時は、看護師へ報告している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬表を作成し、確認をしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬ボードを活用している。服薬時は、名前の確認を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排便の確認を行ったり、状態の確認を行い、変化に注意している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	変更時は、本人様の様子を記録し、看護師にも報告している。看護師から家族、医師の情報提供をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に重度化の話をしている。変化の段階ごとにご家族と話し合い、意向を確認しながら方針を決めている。	/	/	/	事業所には特殊浴槽もあり、身体的な重度化には対応が可能であるが、医療的な処置が必要な状況になった場合は家族とも相談し、医療機関等へ移っている。事業所での看取りは実施しておらず、その点については入居時に利用者や家族へ説明している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族様を通じて、かかりつけ医などに相談して頂いている。看護師から病院への連絡も行っている。	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量を把握し、どこまでの支援が出来るかを見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族様に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期の方はおられないが、勉強を行う体制はある。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様とのコミュニケーションを図り、必要時は支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	年に2回、勉強会を行っている。対応方法や注意することを学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会にて手順の勉強を行っている。マニュアルにも対応方法があり、確認をおこなっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	テレビや新聞、インターネットなどを活用し、情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集を細目に行い、対応している。職員同士共有している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいを徹底している。玄関に手指の消毒が出来るように消毒液やマスクを置いている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	施設での様子を連絡し、家族様の意見を聞き、一緒に考えている。	/	/	/	家族や友人が会いに来ることもあり、行事や趣味の会への参加を呼びかけ活動を共にする機会を作っている。毎月、写真入りの苑だよりを家族に送り、何かあった際には速やかに電話連絡を行っている。運営推進会議やサービス評価の取組みについては、自由に閲覧してもらえるよう掲示しているが、実際に目を通して家族が少ない現状であるため、今後はより伝わりやすい報告の工夫に期待したい。家族の来訪時には積極的に声をかけ、話しやすい関係づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来苑者への対応に心がけ、過ごしやすい環境作りを行っている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	行事(夏まつりなど)や趣味の会への参加の声かけを行っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時に苑での様子をお伝えしたり、苑だよりを定期的に発行し掲示している。苑での様子を写真に収めたものを運営推進会議で閲覧して頂いている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様から訴えがある際は、職員間で共有し伝える事が出来るようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様・家族様双方の理解に努め、より良い関係作りを支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議で報告させて頂いたり、苑内で掲示していることもあり。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	趣味の会や行事への案内を行い、家族様が交流して頂ける機会を作っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様の状態をお話ししながら、リスクについても一緒に説明を行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	挨拶を基本に、笑顔で話しかけるように心がけ意見や希望、近況を把握しては、ご家族様のケアにも努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度、説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約時に説明を行っている。退去先の情報提供も行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の内訳を文書で示し、説明・同意を得ている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に地域の方に案内し、説明を行っているが、苑のことが具体的には理解できていない人もいらっしゃる。	/	◎	/	地域住民が気軽に事業所へ立ち寄ってもらえるような機会づくりの一つとして、ブローチづくりなどの手芸や、お菓子作りやお花見などの行事を共にする「趣味の会」を発足させ、親睦が深まりつつあり、今後も活動が継続できるよう期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的なあいさつを中心に行い、趣味の会を通じて地域の方と交流を図っている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	趣味の会や散歩を通じて、支援してくれる方が増えてきている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	趣味の会を通じて苑に来てもらったり、利用者とお話してくれている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時、挨拶をし合ったり、趣味の会を通じて苑に立ち寄りやすい雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	日常的な活動支援までは出来ていないが、趣味の会を通じて、利用者とお話される方が増えた。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	近所のお祭りへの参加や地域の文化祭の展示を目標に作品を作り、本人の心身の力が発揮できるように努めている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	施設で行う文化祭時、学校や地域の方へ声かけを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	就労されている方も多く、参加の声かけはさせて頂くが強制はしないようにしている。	◎	/	○	運営推進会議には、家族や地域住民の参加が得られている。毎回事業所のリビングを会場にしているため、サービスの実際や評価への取組み状況を利用者の普段の様子から見て、感じとってもらえている。参加者が固定化の傾向にあるため、継続して多方面に参加を呼びかけているところである。参加者同士の連携も深まってきており、防災についてのアイデアも出され、徐々に活発な会議になってきている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議での意見交換を参考に取組んでいる。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	運営推進会議に参加しやすいように定期的に行い、日程は早めにお知らせするように心がけている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を作成し、各ユニットにおいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	法人・自施設の理念を作成し、掲示を行い、職員がケアに活かせるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	各ユニット掲示している。法人のホームページで閲覧できるようにしている。	○	x		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	資格や経験に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。				代表者は職員研修に力を入れており、事業所での勉強会を職員が持ち回りで講師役を務めることで、相互の学びが深まるようにしている。希望休などの働きやすい就業環境の整備にも配慮があり、職員からも働きやすい事業所であると声が聞かれた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	月1回の勉強会を行っている。外部研修もやっている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が職員の状況を把握し、代表者に伝えている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	今治市のグループホーム交流会や勉強会に参加し、他事業所の取り組みを知る事により、職員の意識向上を行っている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	職員の希望休、リフレッシュ休暇の導入に努め、全事業所による交流として運動会や新年会をして交流の場を設けて職員間の連携につなげている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会のテーマに取り入れ、理解し、防止の徹底を図っている。				職員会で行っている勉強会でも虐待防止をテーマを設け、スピーチロックといった言葉での虐待など、職員同士で学びを深めている。職員の声かけが不適切なものにならないよう、管理者が注意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	会議の中で、ケアについて提起し考える機会を作ったり、日頃から疑問点など話し合うことを行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアルがあり、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。職員は定期的な勉強会を受け周知徹底に取り組んでいる。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員1人1人への目配りや話をする機会を設けている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会で繰り返し取り上げて勉強し、理解できている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束をしてはいけないという事を認識し、ユニット会や申し送り時に話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族様に弊害について説明を行い、話し合いながら理解をして頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会や研修で学んでいるが、理解が不十分である。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	情報の提供を行っているが、具体的な相談にのる事が出来ない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要時に連絡を関連機関と連携を取っている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	実践できるようにマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書・ヒヤリハットの検討を行い、情報の共有・再発防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者1人1人の状態から考えられるリスクを検討し、事故予防に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルに基づき、苦情があった時の対応について検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。会話から不安と感じた際に、早めに対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった際は、真摯に受け止め、対策の検討を行い、経過や結果を伝えたり、話し合いを行うことの重要性を理解している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	窓口を設けることができている。	/	/	○	日常生活の中で利用者から希望を聞いたり、家族と積極的にコミュニケーションをとることで要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。職員からの相談事などは各ユニットリーダーを通してリーダー会議で検討され、状況によっては法人本部へ伝えられる仕組みがあり、運営に反映している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	窓口を設けることができている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	その都度情報提供を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	必要時に、直接話を聞くようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	リーダー会、ユニット会、担当者会議に参加することで活かしている。	/	/	○	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	サービス評価については各ユニットで自己評価を行い、全職員で積極的に取り組んでいる。運営推進会議では評価結果や目標達成計画について報告しており、見守ってもらっているが、さらに取り組みのモニターとして意見をもらい運営につなげて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を行うことにより、課題を明らかにし、現状をすることで意識統一を図る機会になっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	評価結果より実現可能な目標の設定を行い、達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	協力して頂けるご家族様に協力してもらっている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成に向けた取り組みついて、達成度を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し、勉強会の実施を行っている。	/	/	/	災害対策用のアセスメントやマニュアルを作成、訓練を実施し、避難先である中学校への避難経路の検討など、具体的な話し合いができていますが、訓練には家族や地域住民の参加がないため、今後の実施に期待したい。地域住民からは事業所を避難場所の一つとして提供してもらいたいとの要望があがっており、地域における事業所への期待は大きく、訓練や話し合いを通じて協力・支援体制を確保してもらいたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回、昼・夜間を想定して避難訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や非常食の定期的な点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	苑内での訓練は行っている。地域の災害時発生時の対応についての自治会の話し合いには参加し支援体制については意見交換をおこなってきている。	×	×	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災会議に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議の際に、認知症についての話を行っているが、介護教室や集まり等の講師はできていない。	/	/	/	手芸などを地域住民と共に行う「趣味の会」を通して、徐々に地域との交流が深まってきている。高齢化も進んでいるため、地域からの事業所に対する期待は大きく、相談支援の場として認知されることに期待したい。市や地域にある事業所などの関係機関との関係は良好であり、公民館などの地域活動を協働して行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方が趣味の会へ来られた際にお話を聞いたり、民生委員の方にお話を伺っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	趣味の会として、地域の方をお呼びしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学校の職場体験の要請があれば受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他事業所や医療機関と連絡を取り合い情報共有し連携を図っている。公民館の文化祭や体操教室に参加している。	/	/	○	